

15 years

復興・創生 その先へ

Recovery, Revitalization – Moving Beyond

復興庁 Reconstruction Agency

2026年3月11日、東日本大震災の発災から15年の節目を迎えます。

本年4月からの「第3期復興・創生期間」においても、引き続き、被災地の復興・創生、その先にある未来に向けて、総力を挙げて取り組んでまいります。

赤色丸は“日の出の太陽”で復興を、濃い青色は海で被災地の豊かな自然をイメージしたものです。被災地の速やかな復興のために取り組む気持ちとして、復興庁職員が自ら考案し、平成24年（2012年）から復興庁のロゴマークとして活用しています。

復興大臣

牧野 たかお

2026年2月27日

東日本大震災の概要

| | |
|-------------|---|
| 発生日時 | 2011（平成23）年3月11日14:46 |
| マグニチュード | 9.0 |
| 震度6弱以上県数 | 8県 （宮城、福島、茨城、栃木、岩手、群馬、埼玉、千葉） |
| 津波 | 各地で大津波を観測 （最大波 相馬9.3m以上、宮古8.5m以上、大船渡8.0m以上） |
| 死者 行方不明者 | 死者19,782名（※災害関連死を含む。） 行方不明者2,550名（令和7年3月10日現在） |
| 住家被害（全壊） | 122,053棟（令和7年3月10日現在） |

緊急災害対策本部とりまとめ報（令和7年3月10日）及び令和4年版「防災白書」を基に作成



出典：内閣府広報誌「ぼうさい」
平成23年度夏号（第63号）

出典：東京電力ホールディングス

世界中の皆様へ感謝 195の国と地域、68の国際機関から ご支援・お見舞いの表明をいただきました

**Thank you for your support.
We warmly invite you to visit Tohoku yourself.**

ご支援ありがとうございました。東北へぜひお越しください。

15 years have passed since the Great East Japan Earthquake occurred.

From immediately after the disaster to the present day, we have received tremendous support from all over the world.

We would like to express our heartfelt gratitude and respect to everyone.

Thanks to your support, the recovery of the disaster areas is steadily progressing.

We hope you will come to Tohoku one day to see for yourself how it has recovered.

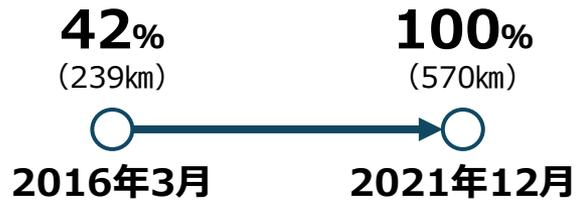
主な支援物資
Main relief supplies provided



道路や公営住宅などの整備は、どちらとも100%完了。

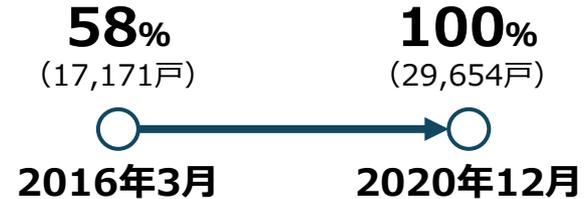
復興道路・復興支援道路の整備

※計画済延長（事業中区間と供用済区間の合計）570kmのうち供用済延長の割合



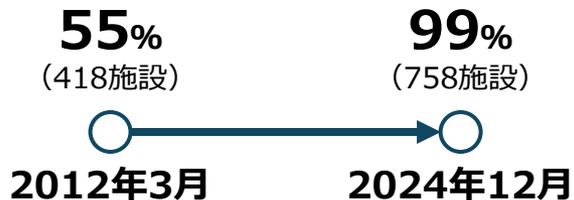
災害公営住宅の整備

※災害公営住宅の供給計画戸数（29,654戸）のうち完成戸数の割合
※帰還者向けの災害公営住宅を除く



水産加工施設の再開状況

※岩手県、宮城県、福島県で
業務再開を希望する水産加工施設（766施設）のうち再開した割合



日本産農林水産物・食品に対する 輸入規制実施国・地域数



津波からの復興（ソフト面）

1 コミュニティ形成支援

恒久住宅への移転後の
コミュニティ形成を円滑に
進めるための活動を支援



2 心の復興

被災者自らが参画し、
活動する機会を創出し、
人とのつながりや生きがい
を持つことができる活動
への支援



3 心のケア支援

被災3県において、心のケアセンターを設置し、医師、保健師、看護師、
精神保健福祉士などの専門家の多職種チームを構成し、被災者の心の
ケアに関する取組を実施。



4 被災者生活支援

災害公営住宅等で暮らす
被災者の日常生活上の
困りごとに対応



5 県外避難者支援

県外に避難された方の帰還・
生活再建に向けた相談支援
などを実施

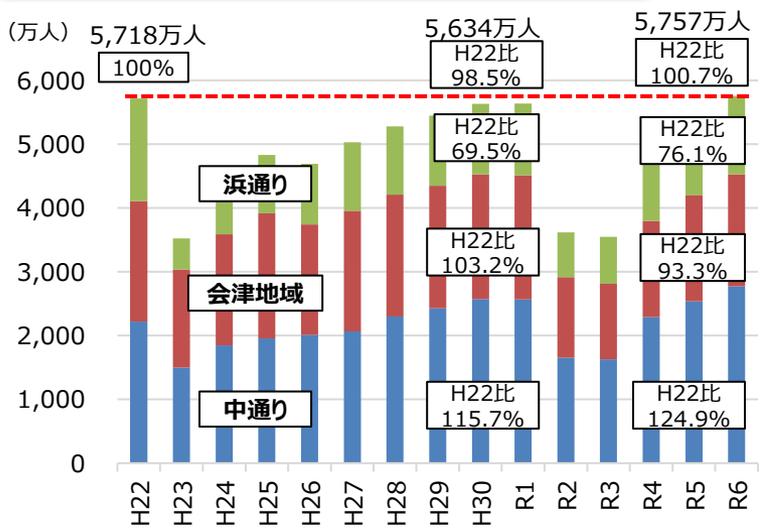


復興期間の流れ

| 期間名称 | 当該期間の特徴、主な取組 |
|--------------------------------------|---|
| 集中復興期間 平成23～27年度 | 一刻も早い復旧・復興を目指す。 |
| 第1期 復興・創生期間 平成28～令和2年度 | 復興のステージが進むにつれて生じる新たな課題や多様なニーズにきめ細やかに対応しつつ、被災地の自立につながり、地方創生のモデルとなるような復興の実現を目指す。 |
| 第2期 復興・創生期間 令和3～7年度 | <ul style="list-style-type: none">○地震・津波被災地域 復興の「総仕上げ」の段階。 第2期復興・創生期間に復興事業がその役割を全うすることを目指す。○原子力災害被災地域 第2期復興・創生期間以降も引き続き国が前面に立って取り組む。 |
| 第3期 復興・創生期間 令和8～12年度 | <ul style="list-style-type: none">○原子力災害被災地域 地域によって復興の段階が様々。 それぞれの地域の実情を踏まえながら、着実に取組を進める。○地震・津波被災地域 心のケア等については、政府全体の施策を活用するとともに、ソフトランディングのため真に必要な範囲で復興施策により対応。 |

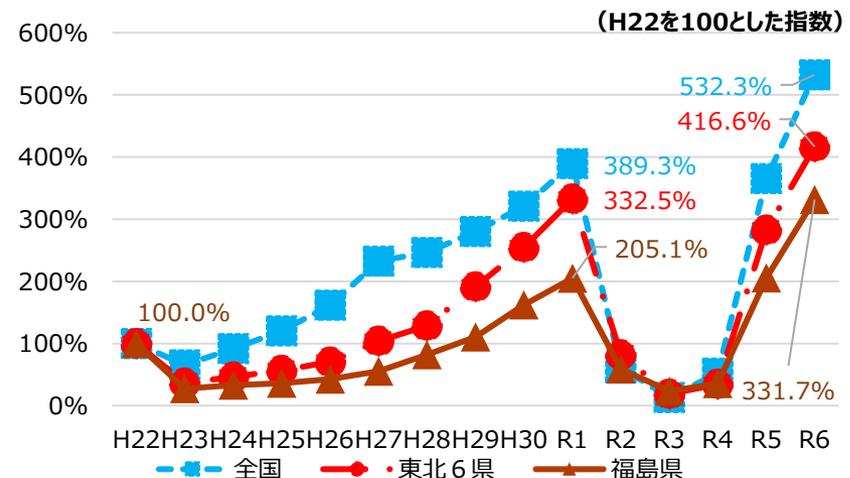
観光業の復興

福島県の観光入込客数の推移



出典：福島県「観光客入込状況調査」

外国人延べ宿泊者数の伸び率の推移



※従業員数10人以上の宿泊施設における外国人延べ宿泊者数

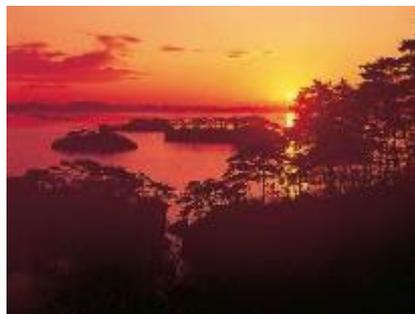
出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

魅力的な観光地

宮城県



仙台七夕祭り
(写真提供：仙台七夕まつり協賛会)



松島
(写真提供：宮城県観光戦略課)



名物の「牛タン」
(写真提供：宮城県観光戦略課)

岩手県



浄土ヶ浜
(写真提供：岩手県公式観光HP「いわての旅」)



龍泉洞
(写真提供：岩手県公式観光HP「いわての旅」)



短角牛のステーキ

福島県



磐梯山
(写真提供：福島県観光物産交流協会)



会津武家屋敷
(写真提供：福島県観光物産交流協会)

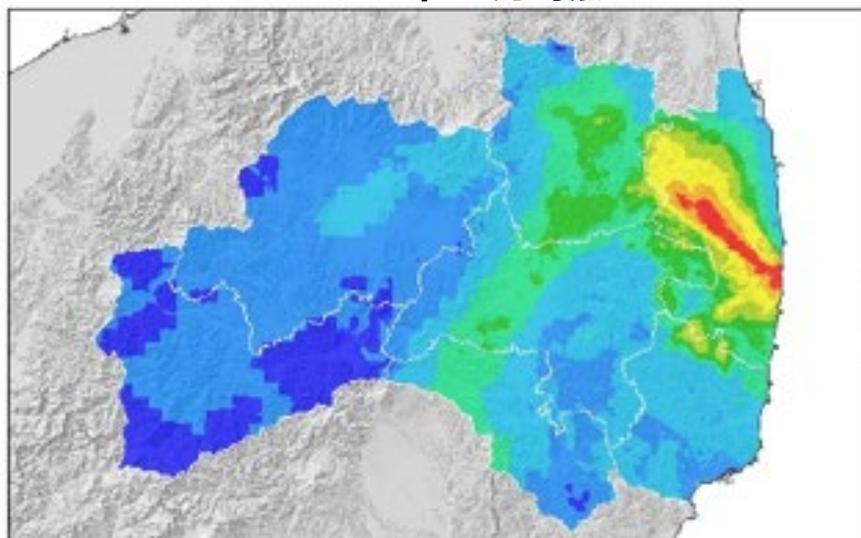


喜多方ラーメン
(写真提供：福島県観光物産交流協会)

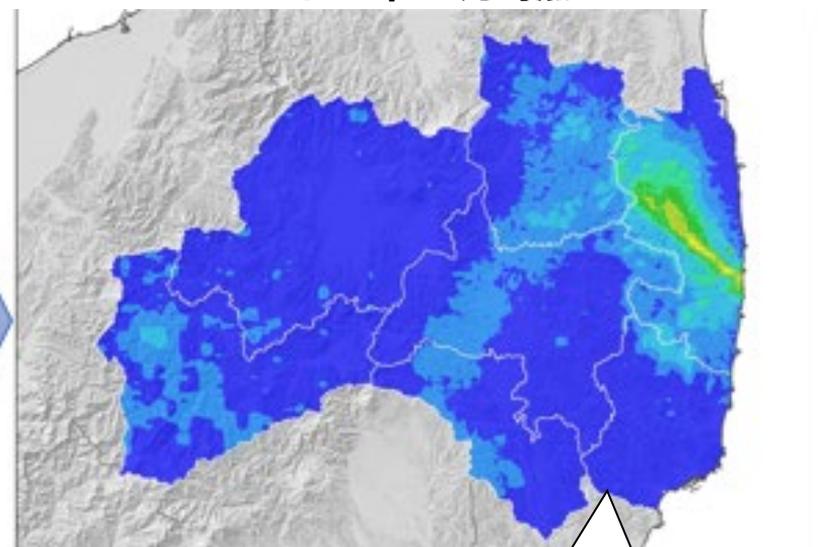
空間線量率の推移

福島県内の空間放射線量率は、除染の実施や自然減衰などにより事故直後と比較して大幅に低下。

2011年11月時点



2024年12月時点



凡例

地表面から1mの高さの
空間線量率 (単位: $\mu\text{Sv/h}$)

| | |
|------------|------------|
| 19.0 < | 0.5 - 1.0 |
| 9.5 - 19.0 | 0.2 - 0.5 |
| 3.8 - 9.5 | 0.1 - 0.2 |
| 1.9 - 3.8 | ≤ 0.1 |
| 1.0 - 1.9 | |

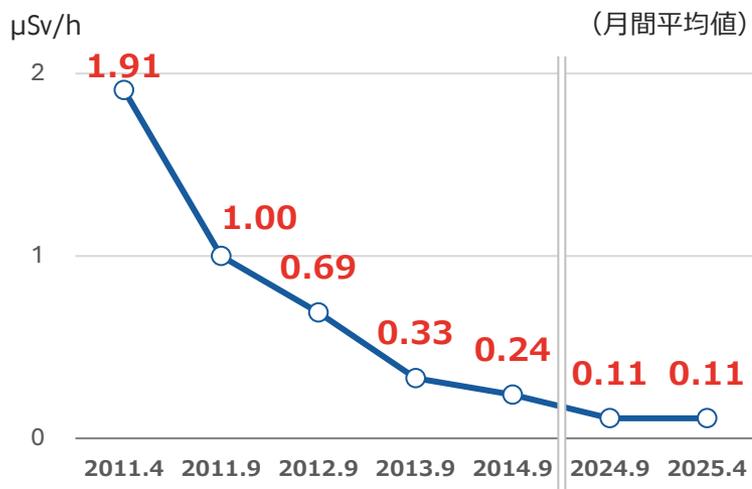
- 東京都の空間放射線量率は ≤ 0.1 に該当
○インド (ケララ) の空間放射線量率は 1.0 - 1.9 に該当

出典: 令和7年度 第28回原子力規制委員会 (令和7年9月3日開催) 資料3「福島県における空間放射線量率の状況」

空間線量率の減少

現在の福島県における空間放射線量率は、日本国内の他の都市や世界の都市と比べて変わらない水準。

空間放射線量率の推移（福島市）



出典：福島県災害対策本部（暫定値）

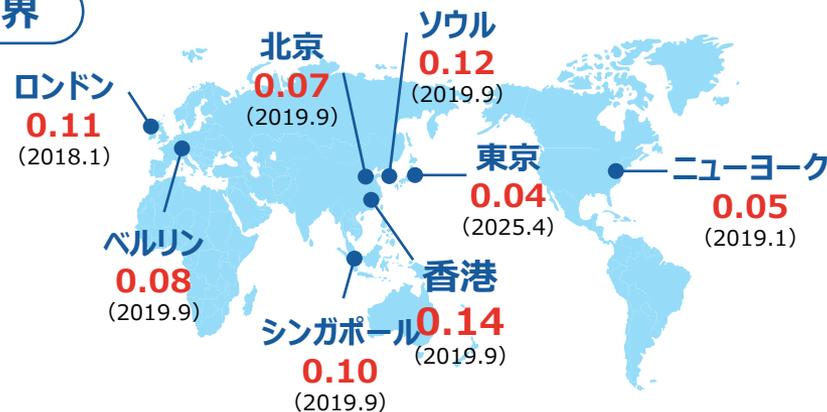
<空間放射線量率とは>

空間放射線量率は、空間中の放射線量（ガンマ線量）を測定したもので、1時間当たりのマイクロシーベルトで表示されています。

計測された数値には、大地からの放射線と宇宙線も含まれます。

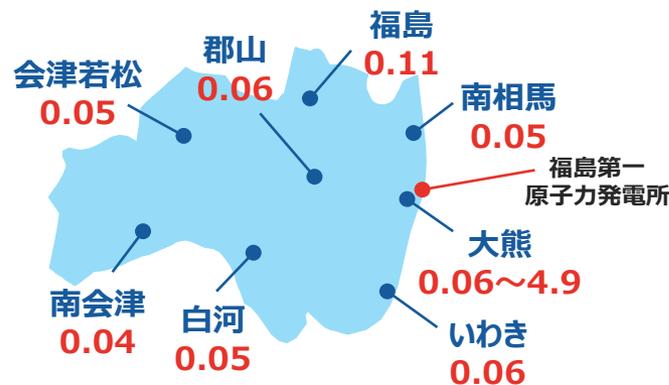
福島県と世界の主要都市の空間放射線量率

世界



福島県

2025.4



出典：ふくしま復興のあゆみ（43号）令和7年8月26日 新生ふくしま復興推進本部

農林水産物モニタリング検査の結果

基準値を超える放射性物質が食品から検出されることは殆どない。
基準値超過が確認された食品は、市場に流通しないよう措置。

農林水産物のモニタリング検査の結果

2024年4月～2025年3月

| 種別 | 検査点数 | 基準値超過数 | 超過数割合 |
|--------|--------|--------|-------|
| 野菜 | 1,448件 | 0件 | - |
| 果実 | 413件 | 0件 | - |
| 畜産物 | 1,573件 | 1件 | 0.1% |
| 山菜・きのこ | 1,005件 | 2件 | 0.2% |
| 魚介類 | 3,404件 | 0件 | - |

出典：ふくしま復興情報ポータルサイト これまでのモニタリング検査結果【年度別集計】をもとに復興庁作成

米の全量全袋検査の結果

2024年8月24日～2025年7月22日

| 種別 | 検査点数 | 基準値超過数 | 超過数割合 |
|--------------|---------|--------|-------|
| 玄米 (2024年度産) | 74,813件 | 0件 | - |

出典：「ふくしまの恵み安全対策協議会」HPをもとに復興庁作成

食品1kgあたりの放射性セシウムの基準値

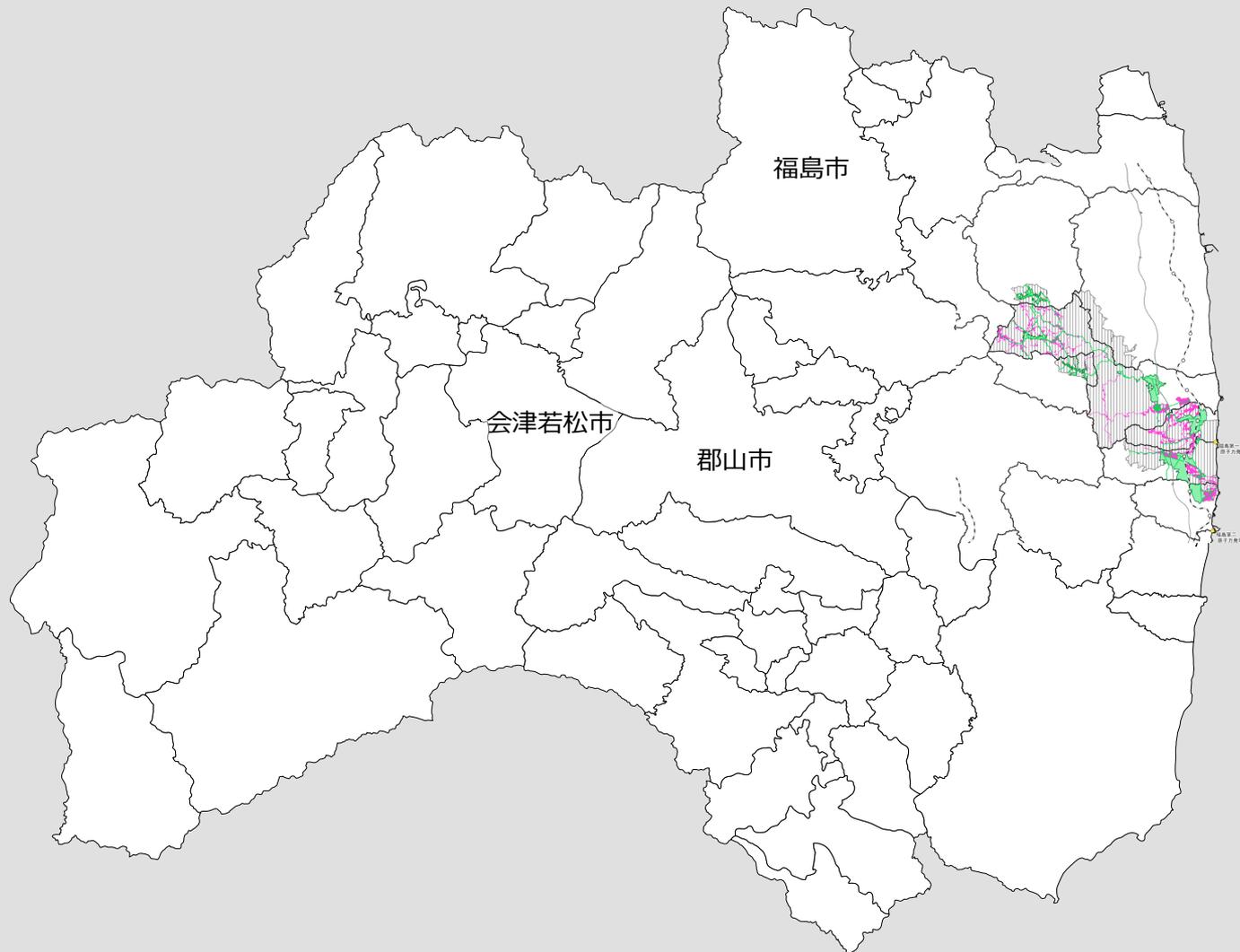
単位：ベクレル/kg

| | 日本 | 米国 | EU |
|-------|-----|-------|-------|
| 乳児用食品 | 50 | 1,200 | 400 |
| 牛乳 | 50 | | 1,000 |
| 飲料水 | 10 | | 1,000 |
| 一般食品 | 100 | | 1,250 |

出典：復興庁HP「福島の今」ちゃんと知っておきたい放射線のこと より

避難指示区域の面積

避難指示区域の面積は、福島県全域の約2.2%である。(2025年12月現在)



生活環境整備の状況

これまでも、各種復興事業を通じて、福島県や市町村が進める医療、子育て、教育、交通、買い物の整備等を支援。

教育



学び舎ゆめの森（大熊町）

医療・介護・福祉



ふたば医療センター附属病院（富岡町）

区域

- 特定復興再生拠点区域(解除済み)
- 帰還困難区域
- 避難指示解除区域



買い物



道の駅なみえ（浪江町）

子育て



わんぱくパーク（富岡町）

交通



JR双葉駅（双葉町）

大熊町 JR大野駅前（西口）商店街

震災前



震災直後
(2011年)



解体後写真 (2022年10月)



大野駅西交流エリアの完成イメージ図
次頁

大熊町 JR大野駅西交流エリア

2025年3月15日グランドオープン



商業施設内店舗 (コンビニ1店、飲食店5店、物販店1店)

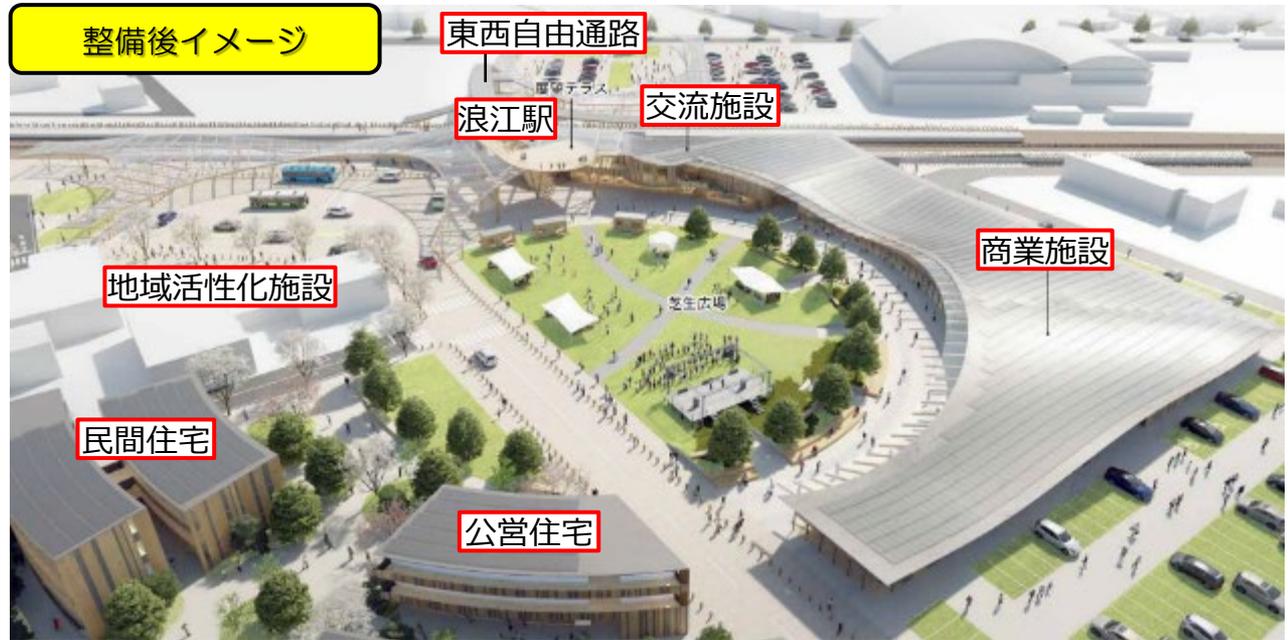
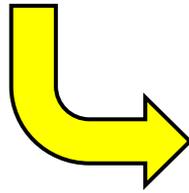
| 店舗名 | |
|-------------------|------------|
| ファミリーマートクマSUNテラス店 | コンビニエンスストア |
| 京都ラーメンおおきに | ラーメン |
| 十川食堂 | 中華料理 |
| 葦駄天IDATENおおくま店 | 和風ダイニング |
| WALNUT(ウォルナット) | ステーキ&カフェ |
| panier(パニエ) | カフェ&レストラン |
| ふたば文具 | 文具、事務用品、雑貨 |



浪江駅周辺整備事業

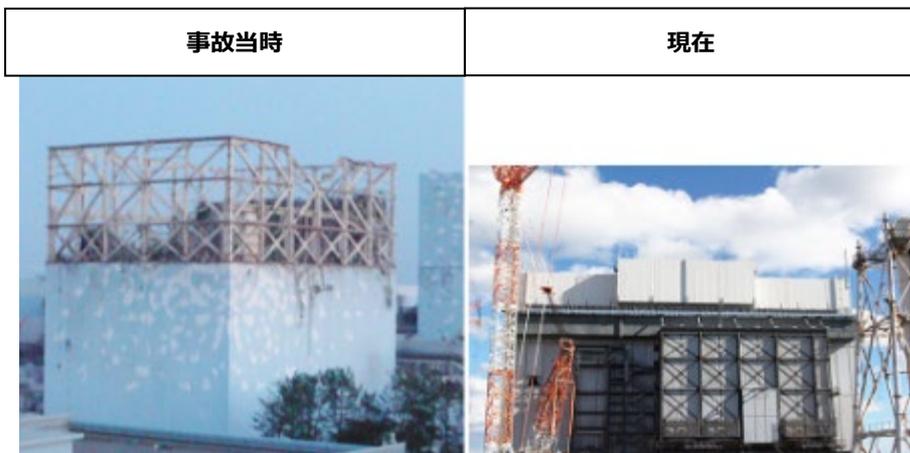


(R6.2.29撮影)



福島第一原子力発電所の現在の状況

■ 1号機



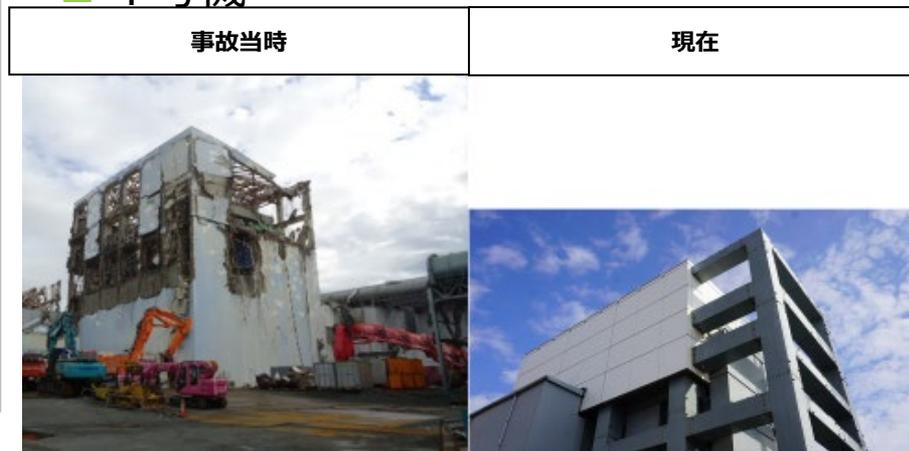
■ 2号機



■ 3号機

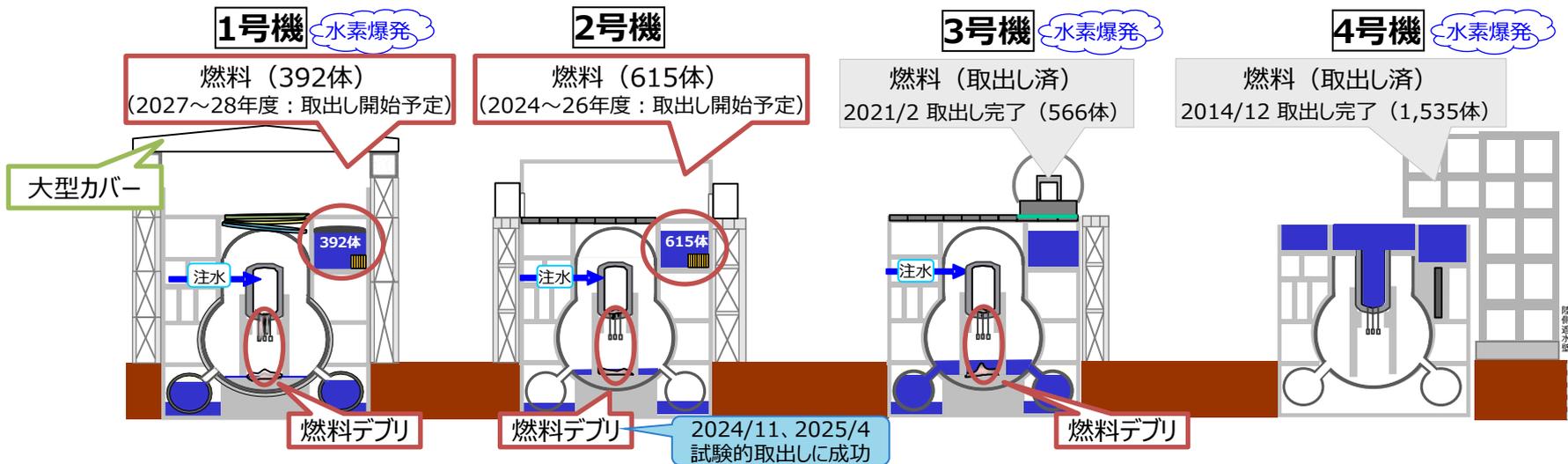


■ 4号機

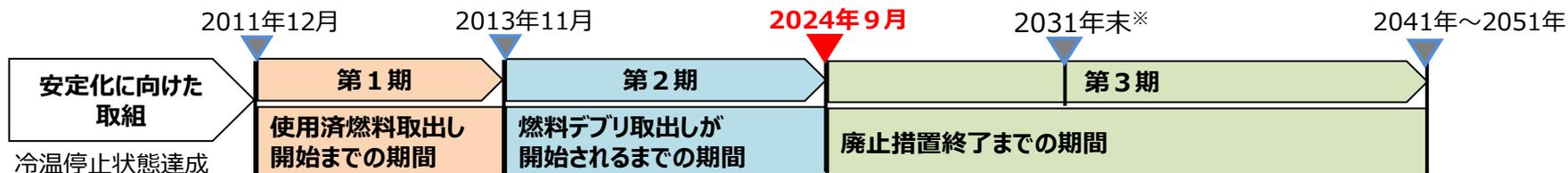


(出典) 東京電力ホールディングス 福島第一原子力発電所各号機の状況 (<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/about/>)

廃炉に向けた取組



中長期ロードマップの工程

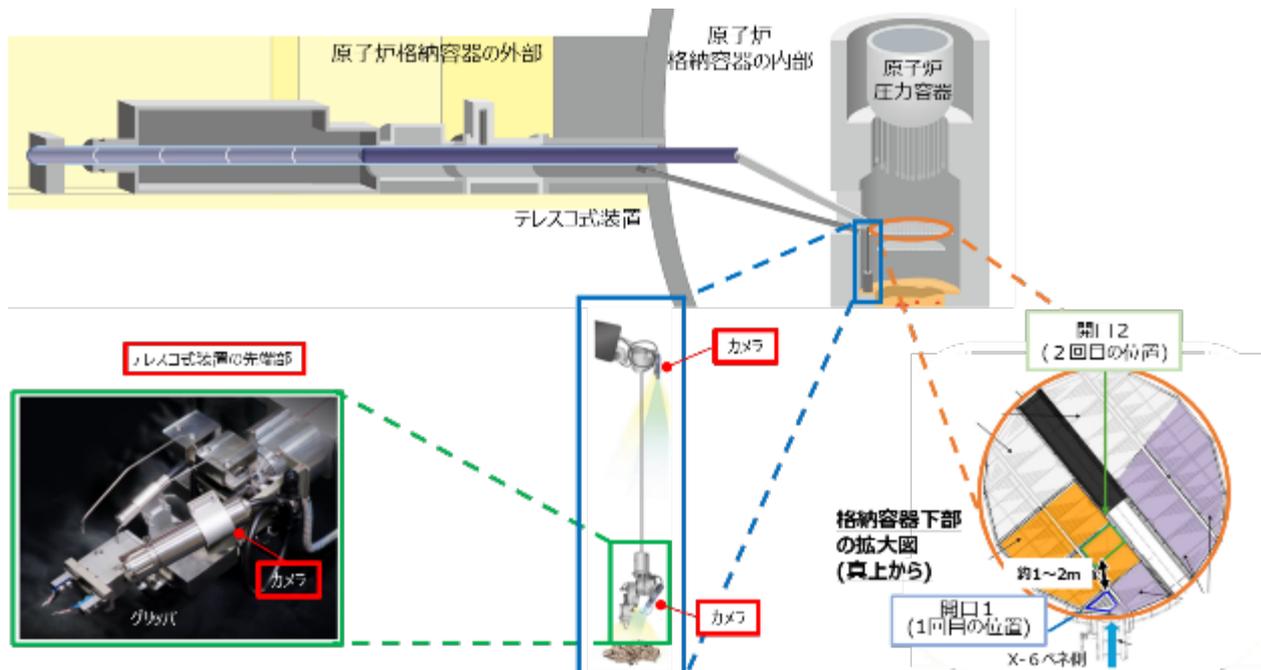


※1~6号機における使用済燃料プールからの燃料取出し完了時期

燃料デブリ試験的取出し

- 少量の燃料デブリサンプルを採取し、性状分析を行うため、燃料デブリの試験的取出しを実施。
- 2024年11月、2025年4月の2回、2号機において、テレスコ式装置（伸縮式の機構を備えた取出し装置）を用いた試験的取出しに成功（それぞれ異なる場所からサンプルを採取）。
- 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）などにおいて、1・2回目の試験的取出しにて採取した燃料デブリの分析を実施中。

テレスコ式装置

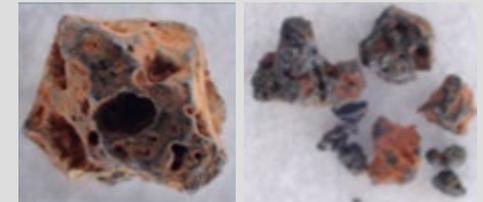


1回目に採取した燃料デブリ



重量： 0.693g
大きさ：約9mm×約7mm

2回目に採取した燃料デブリ



重量： 0.187g
大きさ：約5mm×約4mm

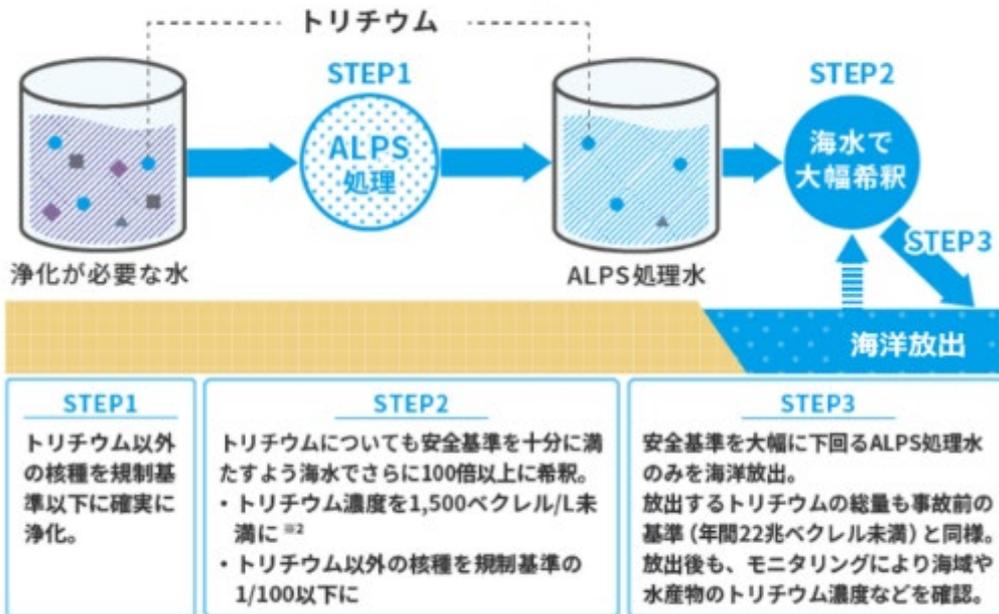
ALPS処理水

ALPSとは、Advanced Liquid Processing Systemの略語で、様々な放射性物質を取り除いて浄化する「多核種除去設備」。

ALPS処理水は、ALPS等を用いて、トリチウム以外の放射性物質を安全基準を満たすまで浄化した水を意味する。ALPS処理水を海洋放出する際は、トリチウムを安全基準を十分に満たすよう、海洋放出する前に海水で大幅に薄めている。

なお、海洋放出しているのはALPS処理水であり、汚染水ではない。

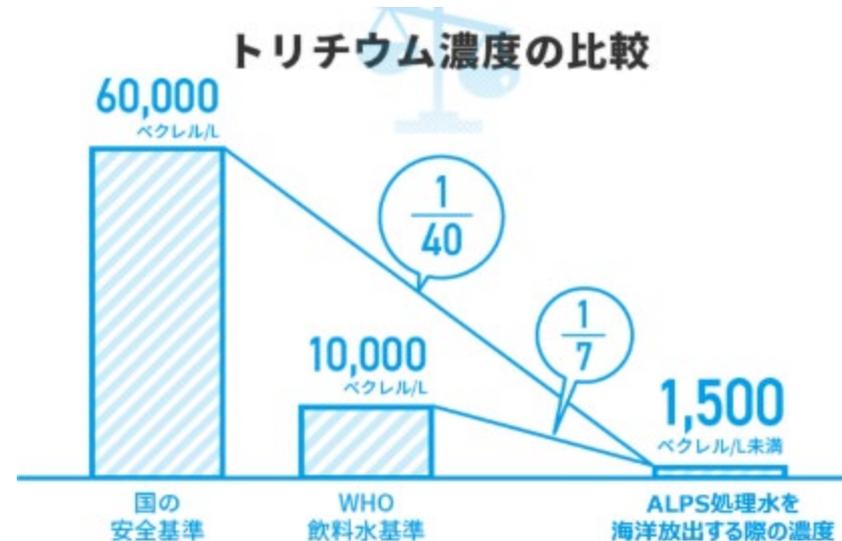
ALPS処理のプロセス



※1 各段階の測定について、IAEAなどの第三者機関も測定し、客観性を確保。

※2 安全基準の1/40、WHO飲料水基準の約1/7。2015年以降、海洋放出中のサブドレンの水の濃度と同じ。

トリチウム濃度の比較



トリチウム以外の放射性物質について安全基準を満たすまで浄化されたALPS処理水は、トリチウムについても安全基準を十分に満たすよう海水で大幅に希釈されます。

ALPS処理水対策

- 2023年8月にALPS処理水の海洋放出を開始。2026年1月現在、17回の海洋放出を完了。
これまでのモニタリング結果や国際原子力機関(IAEA)による評価から、ALPS処理水の海洋放出が安全に実施されていることが確認されている。

| | 放出期間 | 海水のトリチウムのモニタリング結果(迅速測定※1) | |
|------|--------------------|---------------------------|---------------|
| | | 発電所から3km以内 | 発電所正面から10km四方 |
| 1回目 | 2023年8月24日～9月11日 | 最大10Bq/L | 検出せず |
| 2回目 | 2023年10月5日～10月23日 | 最大22Bq/L | 検出せず |
| 3回目 | 2023年11月2日～11月20日 | 最大11Bq/L | 検出せず |
| 4回目 | 2024年2月28日～3月17日 | 最大16Bq/L | 検出せず |
| 5回目 | 2024年4月19日～5月7日 | 最大29Bq/L | 検出せず |
| 6回目 | 2024年5月17日～6月4日 | 最大7.7Bq/L | 検出せず |
| 7回目 | 2024年6月28日～7月16日 | 最大18Bq/L | 検出せず |
| 8回目 | 2024年8月7日～8月25日 | 最大9.0Bq/L | 検出せず |
| 9回目 | 2024年9月26日～10月14日 | 最大33Bq/L | 検出せず |
| 10回目 | 2024年10月17日～11月4日 | 最大48Bq/L | 検出せず |
| 11回目 | 2025年3月12日～3月30日 | 最大56Bq/L | 検出せず |
| 12回目 | 2025年4月10日～4月28日 | 最大27Bq/L | 検出せず |
| 13回目 | 2025年7月14日～8月3日 | 最大31Bq/L | 検出せず |
| 14回目 | 2025年8月7日～8月25日 | 最大61Bq/L | 検出せず |
| 15回目 | 2025年9月11日～9月29日 | 最大23Bq/L | 検出せず |
| 16回目 | 2025年10月30日～11月17日 | 最大43Bq/L | 検出せず |
| 17回目 | 2025年12月4日～12月22日 | 最大35Bq/L | 検出せず |

| | |
|--------------|------------------------------|
| 60,000 | 国の規制基準(放出口) ※2 |
| 単位: Bq/L | |
| 10,000 | 世界保健機関(WHO)飲料水水質ガイドライン |
| 1,500 | 政府方針で示された海洋放出のトリチウム濃度の上限 |
| 700 | 放出停止判断レベル(発電所から3km以内の10地点) |
| 350 | 調査レベル(発電所から3km以内の10地点) |
| 30 | 放出停止判断レベル(発電所正面の10km四方内の4地点) |
| 20 | 調査レベル(発電所正面の10km四方内の4地点) |
| 約10 | 迅速測定の検出下限値約10Bq/L |
| 約0.1-0.4 | 通常測定の検出下限値約0.1-0.4Bq/L |
| 20~0.043Bq/L | 日本全国の海水過去の変動範囲※3 |

※1 トリチウムの検出下限値を1Lあたり10Bq程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を得る測定

※2 原子力施設の放水口から出る水を、毎日、その濃度で約2L飲み続けた場合に一年間で1mSvの被ばくとなる濃度から定められた国の規制基準

※3 出典「日本の環境放射能と放射線」(期間: 2019/4~2022/3)

原子力発電所事故からの環境再生

除染の様子



仮置場の様子



中間貯蔵施設全体

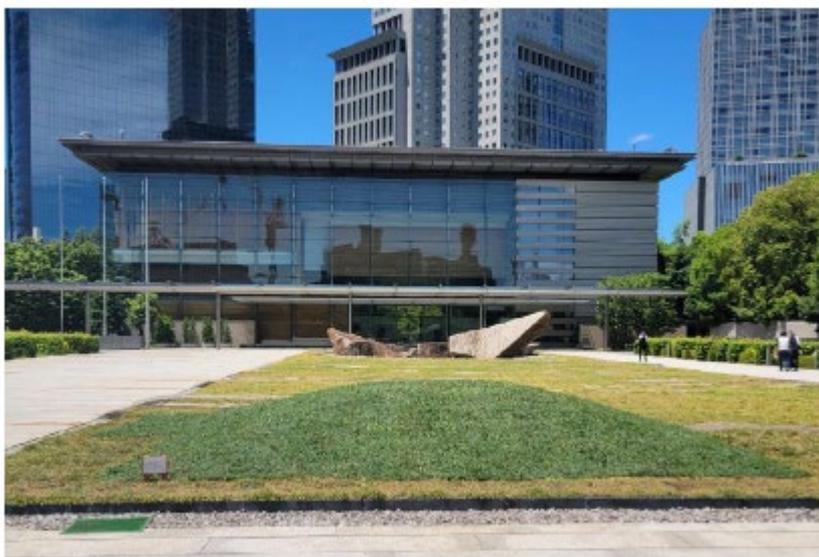


中間貯蔵施設における除去土壌の保管の様子



復興再生利用について

○総理大臣官邸



○中央官庁花壇
(合同庁舎4号館)



福島国際研究教育機構は、福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるものとするとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指す。

①ロボット



リアルハプティクス（触覚）技術

②農林水産業



農機の自動運転

③エネルギー



水素エネルギーネットワーク

④放射線科学・創薬医療、 放射線の産業利用



RIを利用した植物イメージング

⑤原子力災害に関する データや知見の集積・発信



原子力災害データ等の集積・発信

F-REIの施設整備

現況



場所 : 福島県浪江町
敷地面積 : 約16.9ha
主な施設 : 本部施設棟
講堂・ホール施設
研究実験施設

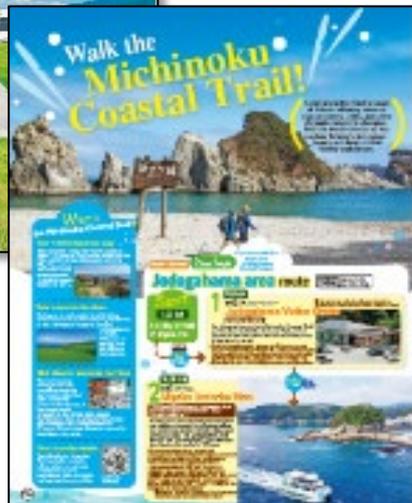
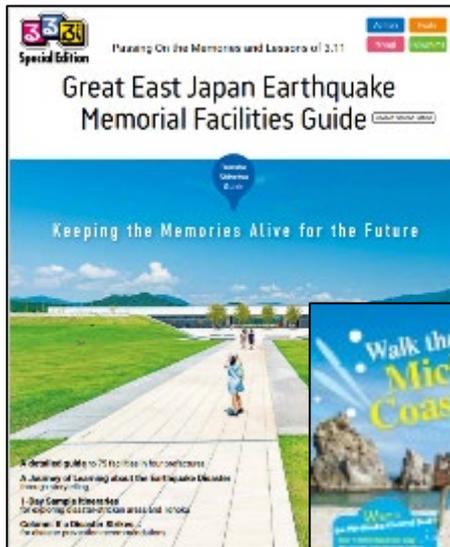
整備イメージ



令和12年度までの順次供用開始を目指し、整備を進めている。

伝承施設（震災を語り継ぐ）

東日本大震災の記憶と教訓を伝えるため、被災地の伝承施設ではそれぞれの地域の被害状況や防災・減災の知識等を発信してきた。



- 2023年3月、こうした被災地の伝承施設を紹介し、東日本大震災の教訓から災害への学びと備えを知っていただくため、復興庁において、「るるぶ特別編集 東日本大震災伝承施設ガイド」を発行し、全国の公立図書館等へ配布を行いました。
- 2025年3月には改訂2版を発行するとともに、英訳版（電子版）を作成しました。

<https://www.reconstruction.go.jp/topics/cat-11/densyo-guide/>

2025年大阪・関西万博における 復興庁の取組結果

【開催概要】

- 「よりよい復興（Build Back Better）」をコンセプトに5月19日～24日に開催。
- 「震災伝承・災害対応」、「食・水産」、「最新技術」や「福島国際研究教育機構」といったテーマで映像やデータ等を用いて「復興のストーリー」を展示するとともに、被災3県の食・水産品の試食を提供するなど、東日本大震災から力強く復興しつつある被災地の姿や地域の魅力を世界に向けて発信。
- 展示期間中には、延べ約4万8千人が国内外から来場。



復興庁展示会場の様子

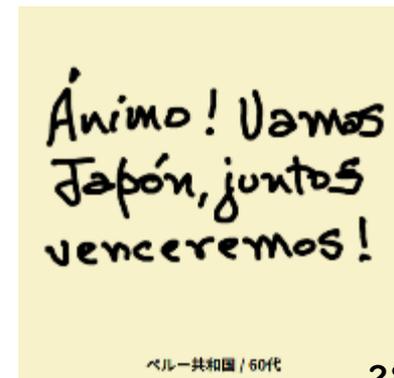
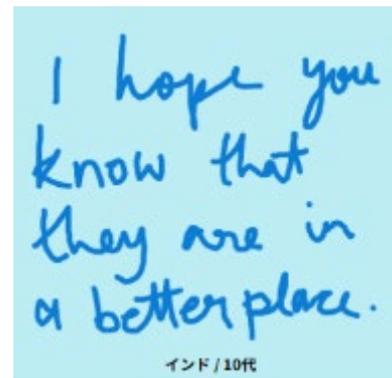
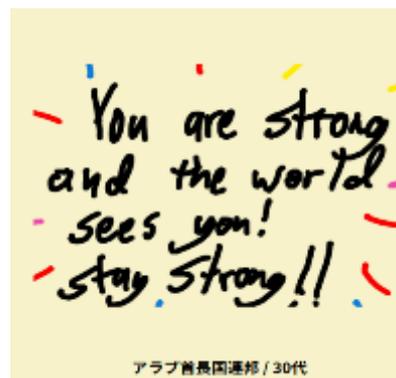


被災3県の食・水産品の試食品



デジタルモニュメント
「成長する『奇跡の一本松』」

【デジタルモニュメントへのメッセージ】 ※約11,700件（令和8年2月27日時点）



Fukushima Updates



Fukushima Updates

2011年3月11日に発生した東日本大震災。
復興の目標は言葉に窮していません。
新しい景色と魅力が広がる復興の今を、皆様にお届けします。

福島の復興の現状と食・観光に関するコンテンツを
英・中（繁体字・簡体字）・韓・仏・スペイン・
タイ・ベトナムの8言語で情報発信中！



感謝

Thank you

15 years

復興・創生 その先へ

Recovery, Revitalization - Moving Beyond

復興庁 Reconstruction Agency